

新幹線を支える
イクチの銅合金インゴット

高品質を追求するイクチの銅合金地金は
鉄道架線金具に使用され、新幹線やJR
各線の安全運転のお役に立っています

株式会社 **イクチ**

〒554-0052 大阪市此花区常吉2-3-53
06-6460-2246 代表
FAX 6460-2355

青銅・リン青銅
アルミ青銅
美術青銅
鉛青銅
など各種

N700系
のぞみ
(時速300km)

63S・D粉
銅・真鍮粉

(株) **アイコー**

代表取締役 宮本盛徳

東大阪市浜川町2-9-27
本社 (06) 4307-0600
三重県伊賀市西之沢162
伊賀アルミセンター (0595) 45-6510

日刊メタルレポート

発行所
株式会社 **日刊金属新聞社**
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話 (076) 444-6836
購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

輸出はいずれも大幅に増加 アルミ スクラップを除き減少



橋本健一郎氏

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート②

【概況】三月前半は米FRBバーナンキ議長が追加的金融緩和について積極的な発言、それをうけてニューヨークダウが約三年九カ月ぶりに一万三、〇〇〇ドルを突破するなどプラス材料もあったが、二月の中国貿易収支が過去一〇年で最大の三一五億ドルの貿易赤字だったこと、中国全人代で温家宝首相が不動産価格抑制に向けて積極的なコメント発したことを嫌気し、LMEアルミ相場は下落、二、一三九ドルと八三ドル下落での前半締めとなった。後半は欧州基金の補充枠の拡大など好材料もあったものの、米格付け会社フィッチによる英ソブリンの見通しの格下げや資源大手BHPピリトンが中国鉄鉱石需要の伸び悩みを予測したこと、さらに経済協力開発機構(OECD)が欧州経済の基盤がまだ脆弱であるとのコメントを発したことを嫌気し下落。三月三十一日現在、LMEアルミ(現物後場)は二、一三〇ドルと一〇ドル強下落のスタートとなった。

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比一三・七%増の九五万二、二六八台であった。
◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比四九・四%増の四九万七、九五九台(前年比一七八・二%増)。
◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比二〇・八六%増の二四七万三千台。
◆新設住宅着工戸数
国土交通省によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)一一・六%増(昨年比七・五%増)の六万六、九二八戸であった。(面へ続く)

一・二年度 アルミ生産七%減少

価格下落が響く―INALCO

インド国営のアルミ大手ナショナル・アルミニウム(NALCO)はこの一・二年度(一・一一年度(一一年四月〜一二年三月)の生産高が四一萬三、〇〇〇トンとなり、前年度四四萬四、〇〇〇トンから六・九八%減少したと発表した。
同社は声明で「石炭不足のほかロンドン金属取引所(LME)のアルミ価格の下落で、ある程度の生産削減を余儀なくされた」と指摘した。
一方、一・一一年度のボーキサイトの生産は五〇〇万トンで、〇九〜一〇年度に記録した四八万トンを上回る過去最高となった。またアルミナ製錬所での水酸化アルミニウムの生産量も過去最高の一六九万トンだった。

アルミニウム二次合金生産、なお調整

軽圧品生産は底入れの様相だが

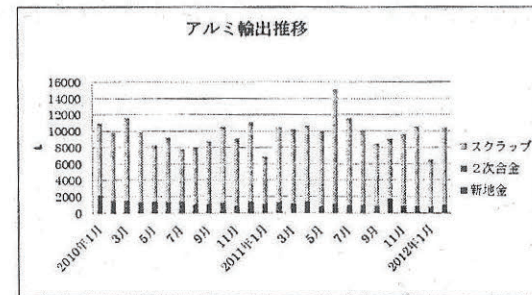
(二面より続く)

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム新地金が前月比二一〇・四％増の一四九t、二次合金が二〇・六％増の八七八t、スクラップが六三・八％増の九、三六二t。

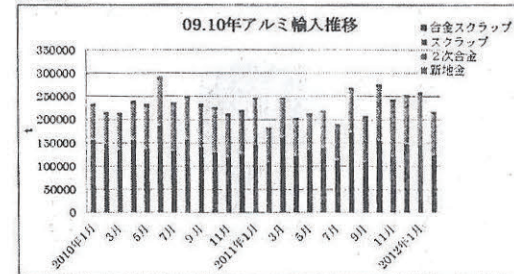
	12月	1月	2月
輸出			
新地金	126 t	48 t	149 t
前月比	-24.6%	-61.9%	+210.4%
二次合金	737 t	728 t	878 t
前月比	+2.9%	-1.2%	+20.6%
スクラップ	9683 t	5716 t	9362 t
前月比	+10.3%	-41%	+63.8%

輸出推移

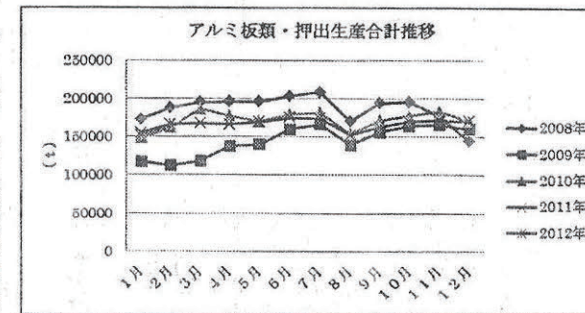


	12月	1月	2月
輸入			
新地金	14万6481 t	14万5073 t	12万4015 t
前月比	-21.6%	-1%	-14.5%
二次合金	10万1202 t	10万8845 t	8万9575 t
前月比	-13.3%	+7.4%	-17.6%
スクラップ	767 t	617 t	912 t
前月比	+37.5%	-19.6%	+47.8%
合金スクラップ	4843 t	5827 t	3084 t
前月比	-15.2%	+20.3%	-47.1%

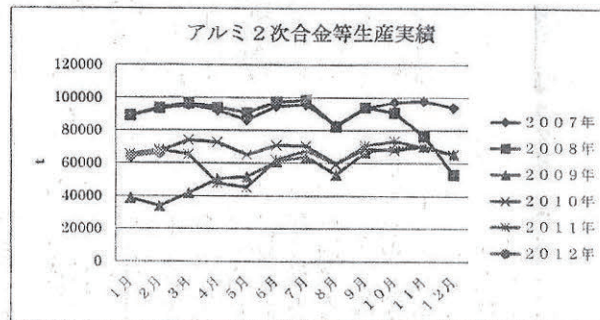
輸入推移



【前月の国内指標】
日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比九・四％増の一六万五、六四四t。(昨年対比〇・三％減)



日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比三・五％増の六万六、一四三tであった(昨年対比三％減)。(六面に続く)



アルミ原料需給は引き締まりも

自動車
生産計画

通りに今後伸びるか

(二面より続く)

【見通し】

自動車関連は堅調、さらに住宅が底入れするものの、それ以外は下振れの月となった。自動車生産は前年比一九・七%増の九五万二、二六八台と七カ月連続上昇。新年度入りで堅調に推移。

また国内自動車販売台数も四九万七、九五九台で前年比一七八・二%増と急上昇。三月の自動車生産計画が二〇八・六%増と自動車関連は絶対好調。

ただ自動車関連のアルミ二次合金生産は、前月比三・五%増の六万六、一四三t。昨年対比三%減と五カ月連続調整中、新年度に早くも原料不足の声が聞かれる。

その他、住宅・家電需要が見込める庄延、押出品生産数は前月比九・四%増の一六万五、六四四t。昨年対比〇・三%減と住宅着工の回復をうけ底入れの様相。

その新設住宅着工数は季節調整前月比一・六%増の六万六、九二八戸で、前年比七・五%増とようやく回復の兆し。四月以降の復興需要に期待。

輸入塊は上海シグマが三月末現在で二、四〇〇ドル(プラス一〇〇)、ロシア塊は二、一八〇ドル(マイナス五〇)とそれぞれだが、港値にすれば二〇九円、一九〇円と、一九〇円前後の国内ものに比べて割高。

輸入は新地金が前月比一四・五%減の一四万四、〇一五t、自動車関連の二次合金は一七・六%減の八万九、五七五t、合金スクラップは四七・一%減の三、〇八四t、スクラップは四七・八%増の九一二t。

輸出は新地金が前月比二一・〇・四%増の一四九t。二次合金が二〇・六%増の八七八t、スクラップが六三・八%増の九、三六二t。

アルミ原料需要に関してようやく震災の処理も進み新設住宅着工数は一・六%増(前年比)と回復の兆し。また最大の需要家である自動車メーカーの自動車販売・計画共、プラス一七八%、プラス二〇九%と好調維持。

前月に続き販売、計画の伸びに比べ前年比二〇%増と伸びが少ない生産は今月こそ急増すると思われる。また二次合金生産も三%減(前年比)と調整が進み、輸入塊の高止まりを受け供給不足が考えられ、今後はこちらも生産が急増するのとの予測。

二次合金メーカーも自動車生産の増産と輸入塊の高止まり(D12で二〇九円)を受け

て、かなりのオーダーを受けている模様(国内塊一九〇円前後)。今後積極的な購入が期待される。

LM E価格について、欧州債務危機への懸念緩和などの好材料もあるが、FRBバーナンキ議長のエネルギー価格高騰についての懸念表明や中国経済の伸び悩みをうけて上値は限られる。ただ引き続き現在の水準が生産コスト近辺(二、三〇〇ドル)であることから下値不安も限られ、前月と同じの二、一〇〇(二四〇〇ドル)を予測。

スクラップ価格については三月後半価格から五、一〇円高を予測。

スペイン債利回り急上昇

欧州主要
株価急落

四日の欧州金融市場では、スペイン国債の流通価格が急落(利回りは急上昇)し、一〇年物利回りは五・七%台(前日終盤は五・四%台)と、三カ月ぶりの高水準にまで跳ね上がった。この日実施された同国国債の入札が不調だったことが理由。市場では財政赤字の拡大が続く同国への懸念が広がっており、沈静化している欧州債務危機が再燃する兆しも出ている。

スペイン政府はこの日、約二六億ユーロの国債を発行。ただ、発行額は目標の下限にとどまるなど、「スペイン財政に対する」市場の警戒感をさらにあおる結果(「市場筋」となった)。

これを受け債券市場では、同国債の流通利回りが急上昇。併せてイタリア国債も売られ、一〇年物利回りは五・三%台(同五・一%台)と約一カ月ぶりの高水準をつけた。

一方、欧州主要株式市場の株価も銀行株を中心に急落。主要市場の終値は、ロンドン市場のFT一〇〇種平均株価指数は前日終値比二・三〇%安、フランスのCAC四〇種指数は二・七四%安、ドイツ株式主要三〇銘柄指数(DAX)も二・八四%安。スペインのIBEX指数も二・〇九%と売られた。

スペイン政府は、二〇一二年に對GDP(国内総生産)の財政赤字比率を五・三%(二一年八・五%)にまで圧縮する計画。ただ従来目標の四・四%から緩和されており、財政再建の遅れが指摘されている。また三月の失業者数が比較可能な一九九六年以降で最多記録を更新しており、緊縮財政による不況の深刻化も懸念されている。